

# ふしみサラダボール子育て情報



「言葉と心」  
令和2年10月21日号  
板橋富士見幼稚園



## 楽しい絵本と向き合って

子どもの乳児期から幼児期は、幼なれば幼いほど、虚構の世界をさまよい楽しむ「術」を知っています。音楽がかかると、目の前に、色々な色がマッピングするそうです。

幼いときに、この虚構の世界で楽しく過ごすことが、将来の知力に繋がるといわれています。「嘘っこの世界」とは、どんな世界なのでしょう。

大人たちには理解しにくいことですが、モノや人形やフィギュア等に対して、ひとりで対話している姿をご覧になったことはないでしょうか。実は、これは虚構の世界で遊んでいるのです。不思議なことですね。もしも大人が同じようなことをしていたら、少し病気を疑ってしまいますが、子どもはこのようなことを毎日繰り返し成長していきます。



今の子ども達を見ていると、ほとんどが現実の生活観の中で遊びを楽しんでいるように感じます。何がだめなのかははっきりと分かりませんが、知識を獲得する世界観の広さが違うということです。現実の世界だけで生活していると、言葉や感覚を育ち持つには、限界があると言われます。

幼児期には、虚構の世界で最も身近なものとして、絵本があります。幼い頃は、絵本を読んであげたり、一緒に見ながら共感したりする事で、感情が豊かになり、併せて言葉もより獲得されていくと言われます。

電子機器などから一方的な情報を受け取るばかりでは、子どもの時期はあまりよくありません。家族で、ゆったりとお風呂上がりに絵本を見たり、就寝前に「グッドナイトストーリー」を、読み聞かせてあげることをお勧めします。そうした時間が、心豊かな子を育ててくれます。時には電子機器から離れて、親子でゆったりと読書の秋を楽しんでみてはいかがでしょうか。